

第5講 ペルシアのイオニアに対する経済政策

1. 研究史

経済的抑圧説

(1) レンシャウ説：

フェニキア人を優遇

イオニア人の経済活動抑制

ペルシアによる貢税の徴収と金や銀地金の退蔵→通貨用地金の不足→貨幣発行の抑制→不況経済活動が低迷した。

(2) オズウィン・マリー説：

経済的側面：

イオニア人とペルシア人の政治的・経済的軋轢

ギリシア世界での民主政への願望

ペルシアからの自由＝僭主政からの自由

社会的側面：

イオニアにおける地方君主や強力な神官団の欠如

経済的側面：

ペルシアの膨張→イオニア諸都市の商業活動に大きな打撃

フェニキア人の台頭→イオニアと西方世界との交易を分断／穀物市場であるエジプトとの交易遮断

ナウクラティスでの考古学資料の断絶

ペルシアによる軍事活動による影響→スキュティアとの貿易（穀物と奴隷貿易）・プロポンティスやトラキアとの交易（木材や皮革、銀、奴隷の交易）

リュディアやエジプト王国の没落→伝統的な傭兵市場の喪失

経済的繁栄説

(3) バルサー説：

経済的抑圧せず

ペルシア支配下のイオニアは経済的には繁栄

その論点は四つある。

- 一、通貨並びに財政特性→イオニアの経済的に繁栄を指示
- 二、ミレトスを除いてはイオニアの経済的發展を破壊せず
- 三、テオスの財政並びに貨幣經濟の特性→実質的な發展を示す
- 四、イオニア經濟を弱らせたのはアテナイの帝国政策

(4) ジョージス説：

ナウクラティスにおけるギリシア土器の欠如：

穀物貿易の中心が黒海に移る

エジプトにおける活動拠点はメンフィスに

フェニキア人やエジプト人は交易を通じてギリシアの銀貨を入手しようとした

トラキア地方征服

ギリシア諸都市への銀の供給増加

多くのギリシア諸都市による銀貨發行

帝国によるカリア人やギリシア人傭兵の需要→貨幣の發行

貢税として帝国に納められた貨幣の多くは宮殿に退蔵される事は無く

ギリシア世界に還流